

# 「らしき」輝く附属小



第34号 令和8年 2月20日(金) 校長 森内 秀学

## 戦った相手は…

2/13(金)は、持久走大会でした。ねらいは、「自分の力に応じた走るペースを見つけながら、自己の体に関心をもったり、体力の向上を図ったりする。」でした。

子どもたちは、全員もらえる記録賞と別に、2種類の賞をねらうことができました。



一つ目は、各学年男女上位10名がもらえる賞です。この場合、本番で戦う相手は周りの人です。ですから、自分がんばっても、相手がもっとがんばったら、なかなか入賞は望めません。

二つ目は、宣言タイムとの誤差±5秒の人がもらえる宣言タイム

賞です。この場合、本番で戦う相手は、自分自身です。抜かされて焦る気持ちを抑え、練習どおりのペースを保つのは、応援されるからこそ、却って難しいものです。

さて、人に勝ったのか、自分に勝ったのか…。子どもによって、その受け止めは様々でしょう。でも、全競技を見ていた私の目には、人に勝たなかった子も、弱い自分には勝ったように映りました。私はそれだけでも、人として、大きな成長を遂げたと思います。

保護者の皆様、応援、ありがとうございました。

## いいかな? 「みんな」に釣られる「わたし」の考え

2/16(月)の昼休み後半から掃除の時間にかけて、予告なしの、地震による火災を想定した避難訓練を実施しました。出火想定場所は家庭科室。

また、地震が起こると通れない場所ができる場合があるため、今回はわざと児童玄関のシャッターを閉め、ここからは出られないようにしました(右)。



子どもたちには、日頃から考えることの大切さは指導しています。でも、いざ、このような場面に遭遇すると、自分の判断に従うというよりも、みんなの動きに惑わされ、そちらについていく様子が見て取れました。こうした集団心理は、時に誤った判断に陥る場合があります。適切な情報から適切に判断する力、まだまだ磨く必要がありますね。